

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100721		
法人名	医療法人 社団 松涛会		
事業所名	グループホームわたぼうし		
所在地	山口県下関市横野町3丁目16番35号		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町受理日	平成23年6月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居心地の良いゆったりとした空間で、思い思いにその人らしく元気に明るく暮らせる環境を整えています。併設病院との医療連携体制の中、心身の健康をサポートし本人、家族、職員ともに安心できる生活を提供しています。ひとりひとりがその人の持っている力を発揮し自信を取り戻して暮らせるよう個性を尊重し、趣味援助、学校方式などをとりいれメリハリのある毎日が送れるよう工夫しています。運営推進会議を生かし、地域の方との触れ合いの機会をふやし社会の一員としての実感をもてるように努めています。職員は常に入居者への敬愛の気持ちを忘れず、丁寧に配慮のある言葉遣いを心がけ、誠心誠意心を込めて寄り添いながら一緒に暮らしています。また向上心をもって各種の研修に参加し専門性を深める努力を求め実践を促してレベルの向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人には医療機関等充実した併設施設があり、医療連携が充実し利用者や家族の安心につながっています。施設は共用スペースや廊下が広くとられ明るくゆったりとしており、のびのびとした環境のもとで、1人ひとりに寄り添った介護や法人のレクリエーションへの参加など、利用者は安心して暮らしを楽しんでおられます。食事は配食サービスを利用されていますが、一緒におやつを作ったり、食事をお弁当箱につめて庭で食べたりと変化を工夫されています。職員間の人間関係が良く、チームワーク良く丁寧に利用者への言葉がけをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で生き生きとその人らしくゆったりと楽しく自由にありのままに」の理念を掲示し日々意識し確認しあって、生活に溶け込むかたちで実践するようにしている。	「地域の中で生き生きと その人らしく ゆったりと 楽しく自由に ありのままに」を理念に掲げ、朝夕のミーティングで確認し共有して、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運営推進委員の方を通じて地域の行事に参加して交流を図っている。(ほたるまつり、夏祭り、子供みこし、芋植え、芋掘り、文化祭、小学生体験学習、支援学校職場体験学習、ビハーラ)	小学校の「ふれあい学級」等体験学習を受入れて、子供たちと交流している。地域のほたる祭り、夏祭り、子供みこしなどに参加している。法人内施設の行事に参加してボランティアとの交流もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のふれあい体験学習や2級ヘルパー講習に於いてコミュニケーション方法を指導したり、認知症高齢者の事例検討会を開き学び合うなどした。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、常に初心にかえることのできる意義あるものと理解している。外部評価でみてきた改善点については、みんなで検討しより良い方向に向けて努力している。	職員全員(常勤・非常勤共)で自己評価に取り組んでいる。改善点については全員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合ったことはスタッフミーティングで報告、検討している。議事録は常時閲覧できるよう掲示し家族からの質問には担当者が答えている。	2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター職員、民生委員、利用者代表、家族代表、病院長、職員代表で外部評価結果等について話し合い、意見はサービス向上に活かしている。新たに第三者委員を増員し拡充をはかっている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課担当職員との連絡は取り合っている。今後更に協力関係を築きケアサービス向上に努めていきたい。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換するほか、介護保険課担当職員と連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的には施錠しないケアの大切さやスピーチロックの弊害について話し合い拘束をしないケアの実践をしている。	マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアについて話し合い理解をしている。施設周辺に危険な場所もあるため、時間帯によっては施錠することもあるが、施錠しないケアに努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き問題点を話し合ったり資料をもとに検討し合うなどして虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を取り入れる家族より情報提供を求められた場合は、家族間の問題に踏み込みすぎないアドバイスを行っている。今後も、自立支援や各種制度の活用について理解を深めていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし疑問点にはしっかり応え納得していただけるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、年1回顧客満足に関するアンケートを実施し、相談苦情を受け入れている。アンケート結果は、集計し今後の運営に反映すべく努力している。	年に1回家族や利用者の満足度に関するアンケートを実施し、運営に活かしている。第三者委員の選任や意見箱の設置をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を述べやすい職場の空気作りに努め、できるだけひとりひとりの気持ちを聴くように心がけている。毎週開催している事業所長会議において意見を述べスタッフの気持ちや提案を反映するようにしている。	管理者は職員が意見や提案を出しやすいような雰囲気作りに心がけている。毎週開催される事業所長会議で職員の意見を運営に反映できるようにしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働ける職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修により多くのスタッフが参加できるよう調整し、職員の育成に努めている。	外部研修や法人内研修の機会が多くあり、職員ができるだけ参加できるよう努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会開催の研修会に参加し情報交換を行い質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より情報をしっかり聞き、安心できる環境を整えるよう、なじみの関係が生まれるまで根気強くきめ細かい配慮あるケアに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族からの要望を聞くと共に、協力体制が図れるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	わたぼうしの生活とサービスがどのようなものであるか、しっかり伝えていく中で、家族の求めていることをキャッチできるような対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも同じ視点で同じ方向を見て、求めるものには応え、できたことを共に喜び共に笑い、自然に気持ちりが共有できるような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に本人の豊かで安心できる生活を目指し、相談しあえる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などが訪れやすい雰囲気づくりに努め、安らいだ時間と場所を提供できるようスタッフ全員で努力している。	近所の知人が来訪し、お茶を楽しんだり、家族の協力のもと、正月の帰省や外食などを楽しんでいる。馴染みの美容院の利用を家族の協力を得て支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮した配席を工夫したり、ふれあいのきっかけを提供し、集団の中で孤立を感じることがないように注意深く見守って必要に応じ声かけをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった方には、お見舞いに行く等し、ご家族の相談を受け、この先の不安を受けとめ、他のサービス関係者との架け橋になれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族とも相談しながら、可能な限り本人の意向に添えるよう努めている。各スタッフが専門性を身につけ、訴えや要望が少ない人の思いも汲み取りその人本位に検討している。	日常のかかわりの中で利用者の思いや希望を聞くことに努めて把握し、利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各人の生活歴や暮らしぶりの把握に努めているが、家族との情報交換の場を多く設け理解を深めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態をきちんと把握し、通常との変化を速やかに担当看護師に伝えている。スタッフ間の報告、連絡、相談を徹底するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・看護師・スタッフそれぞれの意見を反映し、現状に即したプランの作成に努めているが、今後もよりよい計画の作成ができるようなスタッフの育成に努めていきたい。	把握している利用者の思いや家族の意見、看護師、職員等の意見を反映し、計画作成担当者が中心となって毎日のメモをもとに現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活活動表やふれあい記録を活用し心身両面のよりよい支援を目指して職員間で情報を共有し改善、見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署と連携し「学校方式」を取り入れ機能訓練や楽しみ生きがいの提供をしている。また、本人・家族の要望による外出・外泊・家族の宿泊等には柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に地域との情報交換が拡がっている。更に地域資源を活用し、より豊かで生き生き暮らせる環境づくりに取り組んでいきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院への受診および他科受診においては、要望や体調の変化に応じた速やかな対応を行っている。	協力医療機関がかかりつけ医となっている。本人や家族の希望や体調の変化に応じた適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し週3回の体調管理を行っている。バイタルチェック、排泄チェック、水分食事の摂取量の確認の上、不調の場合は医師に連絡して受診している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院での医療連携があり、本人家族職員の大きな安心につながっている。相談員との情報交換もスムーズにできている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当の訪問看護師と共働き家族に向けてターミナルケアの説明会を実施互いに方針を共有している。希望があれば随時質問に応じている。	看取りの指針を作成し家族に説明し、家族の同意を得て共有している。家族の看取りへの支援ができるよう訪問看護師らと協力して相談にあたっている。重度化した場合は併設の医療機関を利用する事が多い。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント報告を活用し、ひとりひとりの状態リスクを把握し事故防止に努めている。今後も事故発生時に備えて応急手当や初期対応の訓練に努めていきたい。	一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。研修に参加し、事故防止や初期対応についての勉強会に活かしている。初期対応の定期的な実践訓練は不十分である。	・応急手当や初期対応についての定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体での避難訓練を実施しているが、今後は地域と連携した協力体制を強化していきたい。	年1回法人の避難訓練に参加している。地域との協力体制は充分ではない。	・地域との協力体制の確立
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って接するように心がけている。人格を尊重し、プライドを傷つけないよう言葉かけには十分注意している。	人格の尊重とプライバシー確保に関する研修に参加している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言いやすい関係作りを心がけて自己決定を支援している。自分の思いを表出できない方については専門性の高いケアを学び対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当制で個別対応し、その人の体調や気持ちに添い、また天候に即してどのように過したいのかを受け止め手伝っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる人は、ほめるなどしておしゃれを認め、出来ない人には、時間をかけても少しでも自分でできるものを見つけながらサポートしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を書く。献立を読む。食事の盛り付けをする。配膳・下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器拭きをする。等それぞれができることに参加してもらっている。	配膳・盛り付け・下膳、茶碗拭きなどできることを利用者も一緒に行っている。利用者が毎日の献立を毛筆書きし掲示したり、家族の差入れのさしみを一緒に食べることもあり、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養科より栄養管理した配食をしてもらっている。食事量・水分量をチェックし一人ひとりの状態を把握している。糖尿病の方の食事のコントロール、嚥下障害のあるかたへの対応などしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後速やかに口腔ケアをしている。個人の能力にあわせたサポートを心がけている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、それに添ってさりげなく声かけ誘導し、ほとんどの人がトイレで排泄できている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄の自立の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操、散歩を促し健康管理に注意を払っている。それでも便秘の方にはついては、訪問看護師の指導にて、緩下剤を服用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	マンツーマンでの入浴介助にて自分で出来ることはしていただいている。入浴をいやがられる人は家族に協力いただき声かけをして促している。	10時半～11時半、14時～16時に毎日入浴可能な体制をとり、本人の希望に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその人の状態を見て休息を促している。夜間眠れない人については、医師の指導の下入眠誘導剤の処方適宜行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受けて、全ての人の服薬管理をしている。服薬時は、氏名、日時を確認したのち手渡し、確実に飲み込めたかのチェックをしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの人が楽しみながら好きなこと、できることに参加し、さりげない支援のもと、個々が達成感を味わうことができるよう実施している。	洗濯物たたみ、食器拭き、掃除、ゴミ捨てなどを自主的に行い、利用者が先生となり生け花をしている。隣接施設で週2回開催される学校方式のレクリエーションに参加し音楽、国語、体操などを楽しんでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があり体調がよければ戸外散歩等外出の支援を行っている。ドライブ等は家族と協力しあって支援している。	敷地内の散歩、季節の花見、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は2～3千円程度は持っていていただいている。個人の所有が困難な人については預かり管理している。希望に応じてお茶を飲んだりお菓子を買っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が事前に了解されている方については、要望があれば電話して安心してもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バランスよく調度品を飾り、季節に合った作品類を展示している。四季折々の草花と一緒に生け、心地よい音楽を流している。	廊下や食堂のほか共用空間が広くとっており、明るくゆったりとしている。床暖房があり心地よい温もりがある。クリスマス会に参加した利用者の写真や、利用者が一緒に作った折り紙の源平絵巻の大作が飾ってある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下やロビーの各所にソファを置き思い思い気に入った場所でくつろげるような空間づくりを工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人なじみの家具や小物を置き、これまでの住まいに近い環境づくりができるよう家族と一緒にやっている。また、転倒のリスクの高い人については、安全面に考慮した配置にしている。	使い慣れたタンスや家族が選んだ家具を配置したりしている。本人の状況に合わせたベットを置くなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人その人のレベルに合わせ、声かけ、誘導、手引き、シルバーカー、杖、車椅子など数種類の援助方法を使い分け、できるだけ安全で自立した生活が送れるようサポートしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム わたぼうし

作成日：平成 23年 6月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応についての定期的な実施訓練ができていない。	緊急時の応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、すべての職員が実践力をつける。	マニュアルを整備し、事例別に検討して、急変や事故発生時に備えた訓練を実施する。 (7月、11月、3月の年3回実施)	6ヶ月
2	36	災害時に於ける地域との協力体制ができていない。	災害時に備え地域との協力体制を確立する。	運営推進委員の方々をかけはしに、地域の消防団のみなさんと合同訓練に発展していけるような関わりを持つ。 グループホーム独自の訓練への参加を依頼する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。